

父を失った国

シリーズ・パウロ

第21回

父の日礼拝

かつての日本の家族のあり方

- 家長(父)を軸とした「家制度」があった
- 長男が「家督」を相続した
 - 父親が家族の収入源であった
- 父親が最高権威者であり決定者であった
 - あらゆることに「父の許し」が必要だった
- 父親が家の秩序(しきたり)を維持していた
 - 家の秩序を乱す者は家から出された(勘当)

父親は家という小社会のボスだった

戦後，急激に消滅した家制度

- 平等意識，産業構造の変化，都市化，教育，富，などにより「家制度」は失われつつある
 - 「恥の文化」も消え去った
- 家制度とともに父親の権威もなくなった
- 父親の権威とともに家族の秩序が失われた
- 子どもたちが正しく成長する環境がなくなった
 - 荒れる子どもたち
 - 脆弱で無気力な子どもたち

**家族が
生まれない！**

聖書の教える家族のあり方

- 夫は家族の決定者であり責任者である
 - 「キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、**夫は妻の頭**だからです。」
 - 「**夫たちよ、妻を愛しなさい**。つらく当たってはならない。」＜コロサイ 3:19＞
- 子どもたちは両親を敬わなければならない
 - 「『**父と母を敬いなさい**。』これは約束を伴う最初の掟です。」＜エフェソ 6:2＞

父親の責任

- 供給 (Provide)
 - 物質的供給
 - 心理的供給 (愛情→自己肯定観)
- 保護 (Protect)
 - 物理的保護 (危険から守る)
 - 社会的保護 (メディアの洪水から守る)
- 教育 (Discipline)
 - 社会的教育 (善悪の区別・躾)
 - 霊的教育 (神を畏れる)

父なる神をモデルとして

- 神は万物の創造者であり供給者である
 - 神は私たちの必要を満たして下さる
 - 神は私たちを極みまで愛して下さる
- 神は私たちを永遠に守られる
 - 本来安全なはずの地球を人間が危険にした
 - 神は私たちと常にともにある
- 神は私たちを教育される
 - 様々な出来事を通して私たちを成長させて下さる

このままでいいのか？

- このままいくと日本はただ金と欲望だけが支配する無秩序で醜い国になる！
 - 国として立ちゆかなくなるかも？
- 「型」を取り戻そう！
- 聖書は完璧な「型」である
- 「父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい。」

<エフェソ 6:4>